

● 特別支援学級に在籍する児童生徒の事例

(小学校) 支援員の付き添いによる交流学习
得意な教科は支援員の付き添いなしで、一人で交流学习に行くことができるようになった。評価テストで9割以上とることができるようになったことで自信をつけ、他教科にも参加することができるようになってきた。

(小学校) 個別対応のしかた等について、教員間で情報共有
通常の学級で交流及び共同学習を実施する際、上記の対応をすることで円滑な実施につながっている。教員の適切な対応を見て、周りの児童もよい関わりが増えている。

(小学校・中学校) 支援員の配置 連絡カードの活用
最初に交流に行くときには、担任、支援員が付いていくが、その後は交流学級の友達が送り迎えをしている。連絡カードを活用することで、支援学級と交流学級の連携がとれている。

(小学校・中学校) 児童生徒の実態に応じた学習内容等の調整
運動会や体育祭において、走る距離を調整するなどの配慮をして、共に活動している。

(中学校) 視覚支援の充実
通常の学級で学ぶ際、上記の対応をした結果、本人だけでなく他の生徒にとっても分かりやすくなり、支援につながっている。

(小学校) 特別な椅子、机、昇降機、トイレの手すり等の整備【再掲】
(肢体不自由の児童に対して) 上記の環境整備により、学校生活をスムーズに送れるようになっている。また、他の児童が声をかけ、手助けする姿も見られる。

(小学校) タブレット端末の使用
タブレット端末を使用し、共に学んでいる。市教育委員会がタブレット端末の使用の許可やルールについて、保護者と学校の間をつなぎ、合意形成を図ることにつながっている。

(学校種不明) スモールステップでの指導
学校行事での交流を進めている。例えば、卒業式に向けては、初めは外から眺めるだけ、次は短時間だけ椅子に座り、だんだん時間を長くしていくなど、段階を細かく設定し練習に参加できるようにした。このような児童(生徒)の実態に合った指導を計画的に行うことにより、学校行事への参加が増えた。

(中学校) 交流学习計画の作成と職員間の共有
年度当初に職員間で交流の進め方について確認する場を設けている。給食、清掃、委員会活動、学校行事、教科の学習など、幅広い活動で交流学习が進んでいる。

● 特別支援学級に在籍する児童生徒の事例

(小学校) 交流及び共同学習の継続実施

特別支援学級の児童と通常の学級の児童が、清掃活動において毎日交流を図っている。清掃活動を行う中で、クラスの行事(お楽しみ会など)に特別支援学級の友達を招きたいという意見が出た。子供主体で特別支援学級と通常の学級との交流が増加した。

(小学校) 児童の実態に応じた学習環境の調整

特別支援学級の児童が交流学級で学習をする際に、児童にとって学習のしやすい座席や環境を特別支援学級の担任と通常の学級の担任が保護者の意向を踏まえて相談することで、学習しやすい環境を整えている。

(小学校) 交流及び共同学習の効果的な実施

通常の学級の担任の写真などを特別支援学級に掲示し、日頃から通常の学級も意識できるようにしている。

(小学校) 意思表示カードの活用

交流学習に参加したい気持ちはあるものの、教室に入ることが難しい児童に対し、ヘルプカード(教室から出たいという意思を伝えるカード)を作成している。交流している学級の教室から出たいときは、それを机上に提示することで、見回りをしている教員等が教室の外へ連れ出すことができるようにした。

(小学校) 通常の学級「総合的な学習の時間」における交流活動

小学校4年生の総合学習で福祉について学び、障害についての理解を深める一貫で特別支援学級との交流を学んでいる。それまでの交流もあるが、障害についての知識を身につけることで、子供たちの学びの深まりを感じている。

(学校種不明) 特別支援学級「生活単元学習」における交流活動

生活単元学習の中でお店屋さんを開き、通常の学級の友達を招いて交流している。

(小学校) 児童の実態に応じた学習内容等の調整(学校行事)

肢体不自由学級の児童が運動会に参加をする際は、その児童の走る距離を短くしたり、団体種目では、司会等を任せる場面もあった。

(小学校) 交流及び共同学習の効果的な実施

当該学年の交流学級に学習に行く際に、交流学級の児童が特別支援学級の児童を迎えに行き、会話をしながら教室へ行き、そのまま授業に入る。特別支援学級の児童は、活動時や共に考える場面でも自分の意見や感想などを楽しく発表し、交流学級を十分楽しんで特別支援学級へ帰ってきている。教室へ行くことが楽しみになっている。